

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	9	事例№	6	依頼者	東邦ガス株式会社 ガスエネルギー館	実施場所	ガスエネルギー館 集会室、ビオトープ広場
実施対象	小学1年生～6年生とその保護者 92名（①子ども20名・大人16名、②子ども14名・大人13名、③子ども15名・大人14名）						
実施日時	令和6年8月18日（日） ①10時00分～11時30分、②12時30分～14時、③14時30分～16時						
テーマ	環境教室						

●依頼内容

小学校1年生～6年生の児童を対象に、ビオトープでの活動や室内工作を行う環境学習講座教室の講師（村瀬政彦氏）をサポートしていただきたい。

●講師：村瀬政彦氏（愛知県地球温暖化防止活動推進員、あいちecoティーチャー）

村瀬政彦氏は、ごみ・資源循環・3R、エネルギー問題などを専門とされ、愛知県地球温暖化防止活動推進員であるとともに、「あいち地球温暖化対策人材登録・紹介ネット（温暖化まなびネット）」、「あいちecoティーチャー」にも登録されている。

●授業の内容（3回とも同じ内容で授業を実施）

講義	自己紹介の後、パワーポイントを使って授業が行われた。地球温暖化の影響をよって減少しているホッキョクグマの話を変えながら、地球温暖化の仕組みやその原因とされる二酸化炭素の増加の状況について説明が行われた。一方、森林は二酸化炭素を吸って酸素を出す働き（光合成）をしており、人間にとって大切なものであること、また、植物の葉には気孔と呼ばれる穴状の組織があり、そこで二酸化炭素を吸ったり、呼吸をしたり、根から吸い上げた水分を出したりしていることを学んだ。つづいて、工作の時間に作るカード型顕微鏡（レーウエンフック顕微鏡）の仕組みと作り方、その顕微鏡を使った小さな物の観察の方法についての説明が行われた。	45分
工作	初めに、スチレンボードの中央に爪楊枝で穴を開け、直径2mmほどのガラス玉をはめ込んでカード型顕微鏡を完成させた。つづいて、工作用紙（プレパラート台紙）に開けられた5mmほどの穴をふさぐようにセロハンテープを貼り、テープの糊のついた面に観察したいものを載せてプレパラートを作った。観察用の素材として、塩、砂糖、胡椒、玉ねぎ、セロリ、会場近くで採取した木の葉や花、ティッシュペーパーなどが用意されており、好きな素材を載せたプレパラートを作ってカード型顕微鏡と重ね合わせ、太陽の光に透かして観察した。	45分

●授業の様子

講義は、写真やイラストが多用されたパワーポイントを使いながらクイズも交えて進められ、子どもたちは静かに集中して話を聞いていた。工作の時間には、子どもたちは保護者に手伝ってもらいながらカード型顕微鏡と好きな素材を載せたプレパラートを作り、身近な食材や植物等の観察を楽しんでいた。なかなか上手く見ることができず苦労している様子もみられたが、いろいろな素材を載せたプレパラートを次々に作って顕微鏡をのぞいていた。自宅でも身近なものを観察しようと、帰り際にプレパラート台紙を余分にもらって帰る子どももいた。

地球温暖化と省エネについて学んだ。



カード型顕微鏡を作って、塩や砂糖、葉等を観察した。

